

仏教コラム #2 2019年2月

目次

- 1) 「仏教ユーモア」: Page 1
- 2) 「嫌な人や嫌な状況に出会う（怨憎会苦）」にどう向き合うべきか（2）
ー 人間関係一般に焦点を当てる ー Page 2
- 3) 「アメリカでの仏教テレビ番組
仏教同調者またはナイトスタンド・ブディスト
仏教徒ではなくとも仏教的な人たち」 Page 5
- 4) 「ケネス田中の公開講演と講座 - スケジュール」 Page 9

(1)

「仏教ユーモア」

来世の人生よりもこの人生を

ある皇帝とある老師のユーモラスな会話を紹介しましょう。

皇帝が老師に訊きました、

皇帝：「悟りを開いた人は、死後どうなるのだ？」

老師：「知るわけありません。」

皇帝：「そなたは、老師ではないか」

すると老師は答えました、

老師：「はい、陛下。でも未だ、死んではおりませんのでね」。

ご老師の答えから解るように、仏教は主としてこの人生に目を向けているのです。

* 伊藤真先生が提案された老師の最後の答えは、より深くて面白いです！

老師：「はい、陛下。でも未だ、お陀仏じゃありませんのでね」。

(2)

「嫌な人や嫌な状況に出会う（怨憎会苦）」にどう向き合うべきか（2）

一 人間関係一般に焦点を当てる 一

ケネス 田中

- a) 前は、夫婦関係に焦点を当てましたが、今回は、人間関係一般を仏教の「四法印」という教えを持って、人間関係がよくいくための基本的な見方を提案したいと思います。

四法印

- b) それでは、「四法印」という教えで人間関係を見ることにします。まず、四法印とは、

仏教用語	現代意識	意識の英語
一切皆苦	人生は凸凹道である	Life is a B umpy Road
諸法無我	人生は縁起である	Life is I nterconnected
諸行無常	人生は無常である	Life is I mpermanent
涅槃寂静	人生は素晴らしくできる	Life can be G reat

- c) (一) 一切皆苦 人生は凸凹道である Life is a **B**umpy Road
人間関係自体は、元々大変です。つまり、凸凹道なのです。育ちも異なり考え方も異なる人々が、関係を持って生活をしたり、仕事をしたりするのです。このように、人間関係は根本的に凸凹道だと見ていけば、問題があるのは当然だと見て、その関係を保ったり改善したりする努力を惜しまないようになると思います。また、問題が起こったら、「またか、嫌だなあ」ではなく、「そうか、そうか、どうしたら改善できるか」と言って問題に前向きに臨むようになれると思います。
- d) (二) 諸法無我 人生は縁起である Life is **I**nterconnected
ものごとく人間関係も「当然・当たり前」ということではなく、全て縁に依って起こるのです。ですから、「縁起」なのです。一方、一種の運命論・運命予定説 (predestination)、つまり物事は以前から決まっているとは、仏教では考えません。仏教では、瞬間瞬間、無数の縁によっても物事が起こると考えるのです。ということは、我々の行為によって、関係を少しでも変えることが可能となるのです。
ただ一方、関係は無数の要素で始まり維持されているので、何時も、完全にコントロールすることはできません。その観点から、相手は自分の「所有物」とはならないので

す。特に、連れ合いや（大人になった）自分の子供たちは、「所有物」ではないということ念頭に置くのが仏教的だと、私は思っています。

e) (三) 諸行無常 人生は無常である Life is **I**mpermanent

日本人にとって、「諸行無常」とは『平家物語』などに影響されて感傷的に聞こえるようですが、無常とは、Impermanent、つまり change「変化する」ということです。そのchangeであるという事実は、全ての現象に当てはめることができるので、人間関係もそうなのです。それは、十年前のアドレス帳を見れば、いかに自分が付き合っている人が変わっているということが明らかになりますね。原則に人間関係は常に変化しているので、その関係も変わらなくてはならないのは当然です。

f) (四) 涅槃寂靜 人生は素晴らしくできる Life can be **G**reat

以上の教えを実践し、真摯に努力すれば、素晴らしいと自分が思える人間関係を構築することができるのです。

吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』

g) では用例として、特に若者の間で大ヒットした、吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』（マガジンハウス、2017年）を見ることにしましょう。私は、この本の中心となる内容とメッセージは、（ガンダーラ仏像の章以外）仏教用語を採用し仏教に基づくというようなことは言いません。しかし、非常に仏教的であると思います。ここでは、主人公のコペル君の人間関係の悩みを見ることにします。

それは、コペル君が友達を裏切った話です。彼は、四人組の友人同士でお互いを助け合うと約束していたのです。ある日、学校内で上級生につかまって、たまたまその時には、コペル君は離れていたのです。戻って来たら三人の友達が上級生に囲まれて怒鳴られている。コペル君は助けようと思って、雪を握って投げようとするのだけれども、だんだんと怖くなって立ったまま、友達が殴られるのを傍観してしまうことになる。そこでコペル君は、友達を裏切った、という大変みじめな気持ちになり、精神的にどん底に陥り、家に帰って、風邪を引いて二週間寝込んでしまうのです。

h) 一般論として、嫌な人や問題がある関係に関しては、三つの選択があると思います。その三つとは、1) そのまま受容する、2) 離れる、そして、3) 改善する、ということです。

一つは、そのままにしておく。何もしなく、そのまま受容するのです。コペル君は、何もしなく病気が治ったら学校に戻って、嫌だけれども友達に出会うこととなります。

しかし、コペル君はこの選択をとりませんでした。

二番目としては、離れて行く。もう嫌だから、このケースだったら転校してしまうとか、「離れて行く」という選択もあるわけです。しかし、コペル君はそうもしませんでした。

- i) 最終的には、三番目の選択をとったのです。コペル君は、友達に手紙を書くのです。悪いことをしてしまったという自分の気持ちをしっかりと書いた。彼には立派な叔父さんがいて、常に助言してくれるのです。叔父さんは、友達に手紙を書いたらどうかと助言してくれた。コペル君は、「それはいいね。だけれども手紙を書いたら、友達は許してくれるだろうか？」と叔父さんに尋ねる。そうしたら、叔父さんは「いや、分からないよ」と答えたので、コペル君は「じゃやらない」と言う。

そこで叔父さんは、人間関係ではとても大切なことを、コペル君に説明するのです。「人の気持ちはコントロールできないよ。しかし、あなたがやることはコントロールできる。だから手紙をしっかりと書いて、後はお任せするしかないよ」と助言したのです。私は、この叔父さんの助言には、非常に大切なメッセージが含まれていると思います。

- j) とにかく、コペル君は「改善する」という第三の選択をとったのです。そのままに放っておく（第1の選択）のではなくて、また、そこから去って行く（第2の選択）のでもなくて、何か改善しようとする第三の選択でした。そして、結果的には、友達たちは怒ってなくて、手紙を読んでくれていたのです。逆に彼らは、コペル君が病気だったのに会いに行かなくて悪かったと思っていたのです。

- k) この「仏教コラム」を読んで頂いている中には、今、似たような状況にいる方もおられるのではないのでしょうか？また、今はそうでもなくても、今後、皆なにも訪れる可能性は高いのです。その際、必ずしも、コペル君のように、第三の選択でなくても良いと思います。時には、そのままにしておくか、または、第二の「離れていくこと」が最も妥当となることあります。私自身も、この選択をとったお陰で日本という新天地で有意義な職場と活躍場を得ることができたのです。時には、どう努力しても改善しない場合もあるのです。

- l) 人間関係は大切だけれども大変なのです。そうなのです、「大切だが大変!」。しかし、上記の1) 四法印と2) 三つの選択などを持って、怨憎会苦の出来事を乗り越え、有意義な人生がより深まっていくことを願っています。

(3)

アメリカでの仏教テレビ番組

(2006年、アメリカのロスアンゼルスでのテレビ放送番組)

英語放送をご覧になりたい方は、こちらをクリックしてください：

<https://www.dharmanet.org/videobdkMSL.htm>

そして50番をクリックしてください。

仏教同調者またはナイトスタンド・ブディスト
(Nightstand Buddhists)

——仏教徒ではなくとも仏教的な人たち——

インタビュー者： ケネス 田中

英語からの翻訳者： 伊藤真

ゲスト出演者： ニェンケ・クレイヴァー、エド・ステーブルズ

今日は、自分を仏教徒だとは言わないものの、仏教に強い関心を抱いている人たちについてさらに探究してみたいと思います。そうした人たちは一部の専門家が同調者と分類している人たちです。

大部分の専門家は、アメリカにはおよそ三百万人の仏教徒がいると推定しています。ところがもし仏教の「同調者」を含めればその数はずっと大きくなるでしょう。

こうした同調者について、アメリカ仏教の専門家のトーマス・トウィード教授はこう説明しています——。

同調者とは、仏教に共感してはいるが、もっぱら、あるいは完全に、受容しているわけではない人たちである。(仏教徒かと)問われれば、みずからを仏教徒であるとは主張しないだろう。自分はメソジストだとかユダヤ教徒だとか無宗教だと言うはずだ。もしそういう人たちとじっくり話ができたとすれば——あるいはできれば自宅を訪れて日常の行動パターンを観察してみれば——仏教に関心を持っていることを示す兆候に気づくだろう。彼らは坐禅(坐って行う瞑想)をしたり、仏教系の定期行物を講読したり、仏教に関する本を読んだりすることもあるはずだ。地元の大学のレクチャーに参加するかもしれない。仏教センターのウェブサイトを開覧したり、ネット上の仏教に関するディスカッション・グループに参加するかもしれない。自宅に好んで仏教的な装飾品

を置くこともあるだろう。」

(D・ウィリアムス、C・クイーン編、『アメリカン・ブディズム』、
カーズン、一九九九年、七十四ページ)

トウィード教授は同調者たちのことをもっとしゃれた表現を使って「ナイトスタンド・ブディスト」とも呼んでいます。「ナイトスタンド・ブディスト」という呼称は、そうした人たちが寝室の小卓（ナイトスタンド）にいつも仏教の瞑想の本を置いておいて、寝る前に読む、という習慣に由来します。そして翌朝目覚めると、前の晩に読んだ瞑想について自分でできる範囲で実践してみるわけです。

このような同調者あるいはナイトスタンド・ブディストたちは、自宅のプライベートな環境で（仏教的なことを）実践したり読んだりするわけで、仏教徒の人口に関するいかなる統計上にも表れません。ところがこうした人たちは北米の仏教にとって、その草創期から今日に至るまで、重要な部分であり続けてきたと考えられています。

今日は幸いにして、同調者と呼ぶにふさわしいと私が考えているお二人をゲストにお迎えしています。ニエンケ・クレイヴァーさん（Ms. Nienke Klaver、奥様）とエド・ステーブルズさん（Mr. Ed Staples、ご主人）で、ご夫婦であるお二人は、どちらも学校で音楽を専門に教えています。

ゲスト・インタビュー

（以下、KTはケン田中 = ケネス・タナカ）

KT：さて、ニエンケさん、番組へご出演ありがとうございます。私の最初の質問はこうです——「仏教に関心を抱くようになったのはどれくらい前のことですか？」。

ニエンケ・クレイヴァー：私たちはずっと前から仏教を含む世界の宗教に興味を持ってきました。でも七年ほど前から、私たちはアジアへ頻繁に旅をするようになりました。多くの仏教国にも行き、多くの場所を——仏教関係の場所を——訪れ、そしてもっと関心を抱くようになり、もっとこの宗教について知りたくなったんです。

KT：では、旅行を通じてだったのですね？

ニエンケ・クレイヴァー：はい。

KT：ご自宅に美術工芸品を——仏教関係の美術工芸品などを——飾っているそうですね。ちょっとそれらについて教えてもらえませんか。

エド・ステーブルズ：多分いちばん目立つのは、私たちが持っている像でしょうね、仏像です。我が家に四つあります。一つは韓国のととても大きな石像で、カンボジアに行ったときに買った木製のものもあります。それと、おそらく私のいちばんのお気に入りとはとても小さなやつで、高さわずか数インチ〔十センチ弱〕ですが、タイで買ったものです。それはいわゆ

るアユタヤ様式として知られているもので、タイ様式なんです。そしてそれはとても静謐でとても穏やかな感じをかもし出しています。

私たちが集めた楽器もいくつかありまして、多くはチベットのものです。ひとつはチベットの仏教僧たちが儀礼的に使うトランペットです。そしてシンバルや、リードが二枚ついたオーボエのように演奏される楽器も（あります）。それからいちばん最近チベットに行った時、これらの楽器が法要の一部で演奏されるのを目にしました。

KT：なるほど。仏教関係の場所もいくつか訊ねたとおっしゃいましたが、特に強く心に残ったところはどんなところだったか、興味があるんですが。

ニエンケ・クレイヴァー：ええと……難しい質問ですねえ。強いて言えば、去年の夏、チベットへ旅行した（時の）いちばん最近の体験でしょうかね。私たちは二人の僧侶に、彼らの僧院へ来るよう招待されたんです。実は偶然にも、若い方の僧侶が、**ポー・ガンカル・リンポチェ**の六代目の生まれ変わりだったのです。

KT：ああ、リンポチェですか！ 高僧の「転生者」（生まれ変わりの人）ですね。

ニエンケ・クレイヴァー：高僧の転生者です。そのとおり。そこで私たちは彼らの僧院へ行ったわけです。それで、この僧院（**ミンヤク・ガンカル僧院**）はとても辺鄙な地域にあるんです。電気もありません。もちろん、電話もありません。でも不思議にも人々はこのことを聞きつけて、みんな繰り出して、未来の高僧を歓迎していたんです。信じがたい体験でした。私たちが最も感動したのは人々の敬虔さでした。

エド・ステープルズ：この高僧の帰任式（インドでの勉強を終えチベットの寺院に帰った際の儀式）のために、人びとは猛烈な炎天下に二、三時間も待っていました。そして高僧が寺に入ると、誰もが中へ入り、彼から祝福を受けました。私たちもいちばん最後に中へ入り、彼の祝福を受けましたが、とても思い出深い体験で、一生に一度というほどの体験でした。

KT：その二人の高僧、その僧侶たちとはお知り合いだったのですか？

ニエンケ・クレイヴァー：いいえ、ただ市場を歩いていて（その時）出会ったんです。

KT：それはさらにすごいですね。

ニエンケ・クレイヴァー：ええ。彼らは三年間のインド留学から帰ってきたばかりで、その僧院に戻ってきたところだったんです。

KT：お二人は瞑想したり、仏教の法要に参加したりすることはありますか？

ニエンケ・クレイヴァー：そういう意味での（仏教的な）瞑想はしませんが、ヨガをやりません。そしてヨガを通じて、時には瞑想的な状態に入ることがあります。

KT：なるほど、なるほど。エドさんはどうですか？

エド・ステープルズ：いいえ、私も瞑想はしません。これまでに何度か仏教の法要に参加したことはありますが、最近はないと思いますね。いちばん最近のものはチベットで参加した法要で、それはこの前の夏ですね。

KT：その法要では何か感じるところがありましたか？

エド・ステープルズ：ええ、それはとても。感動せずにはられませんでした。何百人も敬虔な人たちに囲まれていて……それもみんな、自分たちのスピリチュアルなリーダーが、そこにいたから来ていたわけですね。どうしても感化されますよ。同じ感じに包まれるんです——その人たちとは異なるレベルでかもしれませんが——間違いなく感じました。

KT：では、お二人を仏教に惹きつけたものは何でしたか？

ニエンケ・クレイヴァー：私にとっては、非攻撃的な生き方です。すべての人とすべてのものを受け容れること。非暴力。少なくとも、受け容れるという点については、私たちがラサで歩いている時に一人の老女とすれ違った時のことが忘れられません。その時、私たちはお互いを見たのですが、すると彼女は笑って私の手をつかんだんです。私たちは話すことはできませんでした。お互いの言葉がしゃべれませんでしたから。でもそんな状態のまま街角を歩いて、彼女はただ私の手を握って、私を見つめ、そして笑っていたんです。私は受け容れてもらっていることを強く感じました。

KT：エドさんはどうです？

エド・ステープルズ：ニエンケが前に言ったように、私は以前から世界の宗教に関心があつて、それに私は誰もが何らかの自分探し——あるいはある種のスピリチュアルな探究——をしているんだと思っています。そして私自身の探求の中では、私はあらゆる類の信仰にオープンであるようにしてきました。今は、仏教がおそらく私の関心をいちばん惹きつけていると言えるでしょう。私はその非攻撃的なところが好きです。思いやりのある側面も好きです。そしてその教えが、私によき人間であることを、あるいはよりよい人間であるように、手助けしてくれるという点も気に入っています。

KT：さて、お二人はとても仏教に惹かれているわけですがけれども、ご自分を仏教徒だと考えたことがありますか？

ニエンケ・クレイヴァー：それについては、もし儀礼の参加者であり、ある宗派のメンバーであると思うか、という意味なら「ノー」です。それは「ノー」です。でも仏教的な意味で良き人生を生きるよう努力すること、という意味でしたら、「イエス」と言うべきでしょう。

エド・ステープルズ：おそらく私の答えは「イエス」だと思います。仏教徒になるというのはどんな感じなのか、ちょっと考えたことがあるんです。どんなことが必要かはよく知りません。そしてもしブッダの教えに従おうとして、より思いやりがあつて、理解のある寛容な人間になるよう努力するという意味であれば、それが仏教徒であるということならば、それならきっと、ある意味では私は仏教徒だと思います。

KT：さて、ご出演ありがとうございました。私たちは仏教の同調者の方々について非常によくつかめて、真の活きた姿を垣間見せてもらったと思います！ ご出演、感謝します。

まとめ

もし（視聴者の）みなさんもナイトスタンド・ブディストだとしたら、たいていの仏教徒はあなたを、「改宗」させねばなどとは思いませんのでご安心を。そういう意味で、ダライ・ラマが北米で、彼の説法を聞きに来る何千人という人々に、くり返し奨励してきたのは、それぞれができる限りよきユダヤ教徒なりカトリック教徒なりメソジスト派なりでありなさい、ということです！今日の世界に必要なことは、さまざまな宗教が信者獲得合戦を繰り広げることではなく、できる限りたくさんの人たちがそれぞれ現在属している宗教の理想に合致するように生きることです。

そうお断りした上でのことですが、私のように、仏教徒を「自認」している人たちは、仏教徒になりたいという人がいれば、両手を広げて大歓迎することはもちろんです。

しかし、煎じ詰めてみれば、私としては十人の怠け者の「カウチ・ポテト」(couch potato) のような仏教徒がいるよりも、一人の確固としたナイトスタンド・ブディストがいる方が望ましいと思います。なぜなら自分の宗教の外面的な形式に単に従うことよりも、教えを理解することの方がよっぽど大切だからで、それは今日の仏陀による聖なることばに表現されているとおりです！

*私の身体だけを見る者は私を真には見ていない。
私の教えを理解する者だけが真に私を見る。*

(4)

「ケネス田中 公開講演 及び 講座スケジュール」

公開講演

- 2月20日（水）19：00～20：30「誰か・何かのためになろうー 幸せになれる生き方（10）」
東京 Ginza Salon KOKORO アカデミー
https://tsukijihongwanji-lounge.jp/top/ginzasalon_kokoroacademy.html
- 2月27日（水）13：30～15：00「人生は凸凹道(でこぼこみち)」？ 私がキリスト教から仏教へ移った理由
東京 武蔵野大学学習講座
<http://lifelongstudy.musashino-u.ac.jp/site/course/detail/3440/>
- 4月10日（水）19：00～20：30「自分の人生観ー 幸せになれる生き方（1）」
東京 Ginza Salon KOKORO アカデミー

https://tsukijihongwanji-lounge.jp/top/ginzasalon_kokoroacademy.html

4月から始まる公開講座のご案内

- 「伸びるアメリカ仏教の現状と原因 - 日本仏教への示唆」(初級) 4月～7月
 「英語で『歎異抄』を読む」(初級) 10月～1月
 (両方受講する必要はありません。)
 中村元東方学院 (東京、神田本校)
<https://www.toho-gakuin.org/東京本校-講義一覧-2019/>

- 「ケネス・タナカの仏教教室 III - ユーモアで学ぶ仏教」
 浅草 巖念寺。 月1回、8回(4月～12月) 毎回無料懇親会
 有り
<https://www.gonnenji.com/single-post/2018/11/01/『ケネス・タナカの仏教教室III』のご案内>

- 「初歩英語で学ぶ仏教講座3級」「English Buddhist Guide」の資格取得可能
 東京三田 仏教伝道協会 月1回、1回～11回(4月～2月)
<http://www.bdk.or.jp/event/organization03.html>

- 「英語で唯識講座」 横山紘一先生 と一緒に講師を務める
 東京本郷 東京大学仏教青年会館
 授業の曜日は、4月9日(火)、5月14日(火)、6月11日(火)、7月2日(火)、7月23日(火)となります。
 問い合わせ(こちらにメールをお願いします。)
kktanaka@gamma.ocn.ne.jp